

岩手医科大学報

Iwate Medical University News

2014・3 vol.450

●発行者—理事長・学長 小川 彰 ●題字—名誉理事長 大堀 勉



星夜のキャンパス

〈写真撮影：写真部 三浦利貴さん（薬学部3年）、2月5日（水）〉

おもな内容

- 特集 総合移転整備計画に係る新病院エネルギーセンターの建設について 事業推進部施設課
- トピックス フィリピン台風被災地へ食糧支援を行いました
- 教職員レターNo.63 星空のある風景 病院事務部 医事課事務員 安田 信玄
- フリーページ すこやかスポット歯学講座No.19 「障がい者歯科の日帰り全身麻酔下歯科診療について」
口腔保健育成学講座障害者歯科学分野 助教 菊池 和子

特集

総合移転整備計画に係る 新病院エネルギーセンターの建設について

事業推進部施設課

総合移転整備計画の最終段階となる矢巾キャンパスへの附属病院移転事業は、平成31年の開院を目指し基本設計が進められております。この中で、附属病院及びドクターヘリ基地等に対し、エネルギーを供給するエネルギーセンターの建設が附属病院移転に先行して実施される計画となっています。

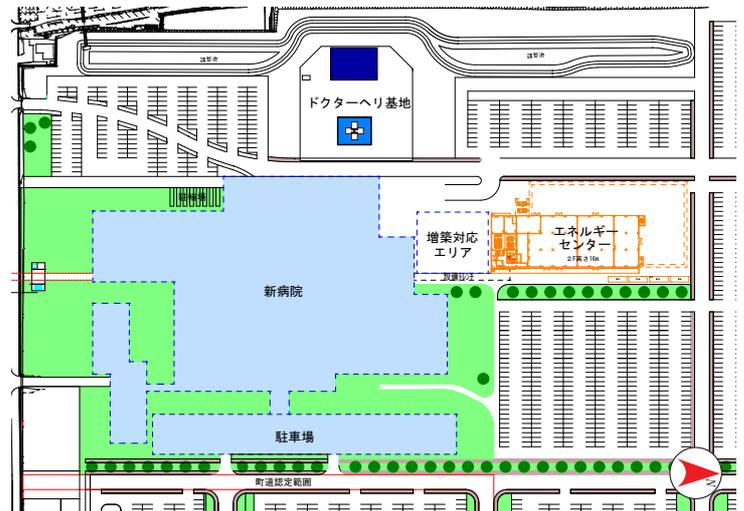
このエネルギーセンターの施設整備につきましては、新エネルギー導入促進協議会（経済産業省）の補助を受け、リスク分散型エコエネルギー供給設備の整備が進められることになっています。

今回は、このエネルギーセンターの概要についてご紹介致します。

事業の概要

事業計画では、先行整備を行うエネルギーセンターは、矢巾新病院建設予定地の北側（右図参照）に建設され、病院で使用する全てのエネルギー（電気・冷暖房用熱源）を供給するほか、隣接するドクターヘリ基地及び同一敷地内に併設予定の県立療育センター、県立盛岡となん支援学校にも電気を供給する予定です。

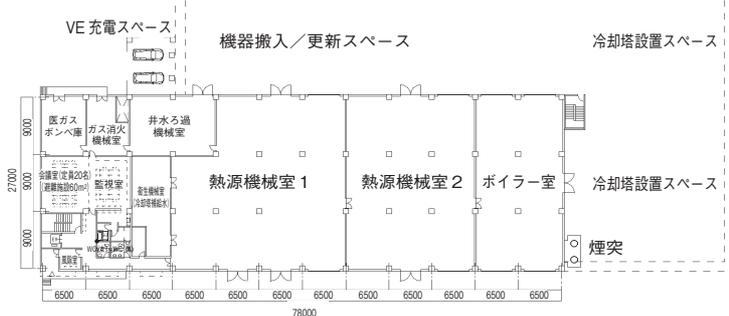
このエネルギーセンターは、災害などによって外部からエネルギー供給が途絶した場合でも、最低3日間は自立供給が可能な分散型エネルギーシステムを構築する予定です。また、このセンターは避難所機能も有し、災害時には避難者の受け入れが可能です。



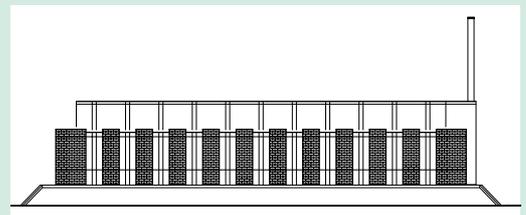
<2階平面図>



<1階平面図>



平面図



立面図

【エネルギーセンター工事概要】

仕様：コンクリート造
階数：地上2階
 (地下：蓄熱水槽)
延床面積：4,200㎡

導入設備

エネルギーセンターに導入される設備の整備は、2期に分けて行われる計画です。

第1期事業では、新エネルギー導入促進協議会の補助事業（スマートエネルギーシステム導入促進事業）を活用します。

導入が予定されている設備としては、太陽光発電システム（蓄電池含）や地中熱利用システムといった環境にやさしい再生可能エネルギーシステムやコージェネレーションシステム（常用発電機の排熱を暖房用・給湯用熱源として使用）のほか、停電時に電源としても活用が可能な電気自動車等が挙げられます。また、これらの設備は、最新のエネルギー管理システムによって総合管理される予定です。

第2期事業は、病院建設時に並行して実施する計画となっており、非常用発電機やボイラー等の熱源設備を導入する予定です。



太陽光発電システム



コージェネレーションシステム



電気自動車 + 充電設備

事業のスケジュール

エネルギーセンター整備事業のスケジュールを記載します。

現在、事業着手に係る調査・設計業務が進行中です。計画通り順調に進捗すれば、平成26年12月頃から工事を開始し、平成28年3月には第1期事業が完了、同年4月から一部施設に対してエネルギー供給が行われる予定です。

事業項目	実施時期						
	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度
エネルギーセンター設計・調査	●●●●●●●●						
導入設備発注・設置 (第1期事業導入設備)		●●●●●●●●	●●●●●●●●				
エネルギーセンター建設工事		—————					
新病院 設計・調査	●●●●●●●●						
導入設備発注・設置 (第2期事業導入設備)				●●●●●●●●	●●●●●●●●		
新病院建設工事				—————			
エネルギー供給				ドクターヘリ基地へ供給		県施設へ供給	全面供給

おわりに

今回ご紹介致しましたエネルギーセンターの事業着手は、矢巾新病院の建設が本格的に始まることを意味し、「新生岩手医科大学」として歩み始める節目の重要な事業とも言えます。

この事業は、皆様のご協力なくしては成し得ません。今後とも引き続きご協力をお願い致します。

フィリピン台風被災地へ食糧支援を行いました

本学は、甚大な台風被害に見舞われ、今もなお深刻な食料不足が続いているフィリピン被災地に対して約5,000食分の食糧支援を行いました。

非常食の購入により世界の飢餓救済活動に参加できる「救岳鳥プロジェクト」を実施している株式会社パン・アキモトと日本国際飢餓対策機構を通して行ったもので、災害時地域医療支援教育センターに備蓄している肉・魚・野菜・スープ・パン・おかゆ・果物の缶詰13,200缶が、フィリピンへ届けられました。

食糧は2月7日（月）にセンターを出発し、2月27日（木）日本国際飢餓対策機構によりフィリピン被災地に届けられました。



食糧の運搬作業を行うセンタースタッフ



食糧を積み込む災害医学講座 眞瀬智彦 教授



現地に届けられた食糧
(写真提供：日本国際飢餓対策機構)



甚大な被害に見舞われたフィリピンの被災地
(写真提供：日本国際飢餓対策機構)

平成25年度日本災害医療実地研修 in 岩手が開催されました

2月18日（火）から20日（木）までの3日間にわたり、平成25年度日本災害医療実地研修 in 岩手（災害時地域医療支援教育センター主催）が実施されました。

この研修は、東日本大震災津波の被災地である岩手県沿岸部を訪れ、当時の対応状況や被災地の現況を見聞し、災害医療への理解を深めることを目的に開催されたもので、全国の臨床研修医や医学系大学院生など31名が参加しました。

参加者は、初日に災害時地域医療支援教育センターで講義や実習、セミナーに参加し、2・3日目には、沿岸部被災地で実地研修を行い、災害医療への理解を深めました。



被災場所を訪れる参加者（宮古市：田老観光ホテル前）

医薬品安全使用のための講習会が行われました



講演する加藤潤一郎先生

医薬品安全使用のための講習会が、2月12日(水)から6回(録画映像による開催含む)にわたって歯学部A棟4階講堂で行われ、職員約1,380名が参加しました。

講習会では、東京慈恵会医科大学葛飾医療センター薬剤部の加藤潤一郎先生を講師に迎えて「医療安全とTeam STEPPSの取り組み」と題したご講演を頂きました。

参加者は熱心に聴講し、東京慈恵会医科大学における事例紹介を通じて医療事故の防止策などについて理解を深めました。



教職員レター

No.63

星空のある風景

病院事務部 医事課 事務員

安田信玄

小中学生の頃、父が大変厳しかったため、落ち込む時が度々ありました。そんな時、皆さんならどうしたでしょうか？私は泣いたし、布団の中で寝て忘れようともしました。また、時々、外に出て星を観ました。するとその綺麗さや壮大さのおかげで、その日分位の元気は出てきました。それが、星を好きになったきっかけです。

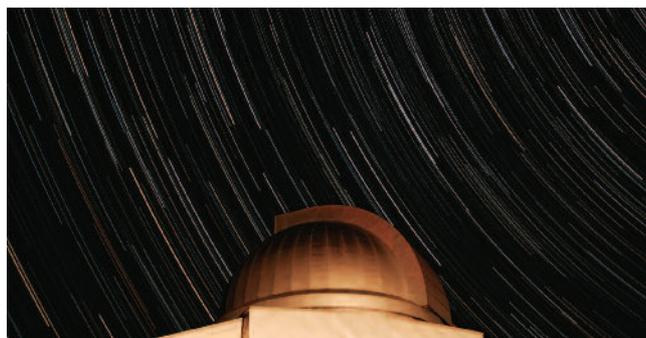
その後、大学生になり、念願の天文部デビューを果たしました！一目惚れした同級生の子に、良いところを見せたかったこともあり、超頑張って活動しました！星観には毎回参加し、各イベントも頑張りました。が、振られました…。世の中、甘く…ない…。

社会人になると、念願のデジタル一眼レフカメラを購入し、理科の教科書に出てくるような星の写真の撮影に没頭しました。しかし、良い写真を撮るには、投資が必要です…。明るいレンズ、良いカメラ、星の動きに合わ

せて動く赤道儀。所詮、世の中お金なのですね…。

そんなネガティブな事ばかり書くと良くないので、お勧めの星観スポットを紹介します。岩手山焼走り国際交流村の天文台付近。相ノ沢キャンプ場の駐車場(小岩井農場から車で約10分)。早坂高原ビジターセンター(国道455旧道途中、冬季閉鎖)等です。特にお勧めは春～秋の早坂高原！満天の星空と天の川を観たら、絶対とりこになります！

岩手には東京のような輝きは少ないかもしれませんが、代わりに、東京では絶対に観ることができない輝きを観ることができます。流星も必ず観ることができますので、晴れた夜、思い切って星空を観に行きましょう！



焼走り国際交流村の天文台



早坂高原で観た天の川



煙山公園(矢巾)の菜の花畑

学 事 案 内

<平成26年度岩手医科大学入学式>

- 医学部、歯学部、薬学部
大学院医学研究科・歯学研究科・薬学研究科
日時：平成26年4月9日（水） 午前10時
場所：岩手県民会館大ホール

<平成26年度岩手医科大学医療専門学校入学式>

- 歯科衛生学科、歯科技工学科
日時：平成26年4月5日（土） 午前10時
場所：本学講堂（歯学部棟4階）

お知らせ：本学施設の使用について

①岩手医科大学施設等使用規程の改正について

岩手医科大学施設等使用規程の改正に伴い、平成26年4月1日より、貸出施設及び使用料金が変わります。

詳細は、大学ホームページに掲載していますので、下記URLよりご確認ください。また、各施設に関するご不明な点は、貸出担当部署へお問い合わせください。

ホームページURL <http://www.iwate-med.ac.jp/ideology/use-center/>

②創立60周年記念館8階研修室及びラウンジの使用停止について

総合移転整備計画に係る歯学部B棟の解体に伴い、本年8月より、創立60周年記念館8階研修室及びラウンジへの歯学部教育施設の移設工事を行います。これに伴い、本年8月1日以降の施設使用を停止いたしますのでお知らせ致します（既に受け付けた予約も取消となりますので、ご注意ください）。

理 事 会 報 告

■ 1月定例（1月30日開催）

1. 任期満了に伴う附属花巻温泉病院長の選任について

附属花巻温泉病院長 猪又 義男（再任）

（任期 平成26年4月1日から平成27年3月31日まで）

2. 教員の人事について

放射線腫瘍学科 教授

有賀 久哲（前 放射線医学講座教授）

補綴・インプラント学講座 准教授

鬼原 英道（前 講師）

口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野 准教授

佐藤 和朗（前 特任講師）

（発令年月日 平成26年2月1日付）

3. 職員の人事について

副看護部長 佐藤 久美子（現 中8階看護師長）

副看護部長 千葉 香（現 西4階看護師長）

薬剤長 米澤 裕司（現 主任薬剤師）

（発令年月日 平成26年4月1日付）

4. エネルギーセンター施設整備事業の基本設計について

エネルギーセンター施設整備事業の全体計画概要について承認

※詳細は、本号の特集記事をご覧ください。

5. 全学教育推進機構の設置及び全学協議会の見直しに伴う組織規程の一部改正について

（1）全学教育推進機構の設置

本学の特色である医学部・歯学部・薬学部の連携・横断的教育の推進と教養教育・準備教育・リメディアル教育の実施及び全人的・全学的教育の企画運営を行う組織として「共通教育センター」を「全学教育推進機構」に改組し、その教育・研究組織として「教養教育センター」を設置

（2）全学協議会の見直し

全学協議会を教学部門の最高議決機関として位置付けるとともに、名称を「教学運営会議」に変更

（施行年月日 平成26年4月1日）

— 大学報原稿募集 —

岩手医科大学報は、教職員皆様のコミュニケーションの場として発行を重ねていますが、さらなる教職員同士の“活潑な意見交換の場”として原稿を募集しています。

岩手医科大学に対する意見や提言、日々の業務で感じること、随想、作品（写真、俳句、絵画など）、サークル紹介、学報への感想など、様々な内容をお寄せください。（原稿字数 500字～1,000字程度）

また、特集してほしいテーマや、各コーナー（「表彰の榮譽」「トピックス」「教職員レター」など）への掲載依頼などもお待ちしております。事務局までご連絡ください。

【連絡先】

大学報事務局（企画部企画調整課）

内線 7023 kikaku@j.iwate-med.ac.jp

3月は旅立ちの季節です。学生さん方の卒業、職員の皆さんの退職など多くの方々が春からの新しい生活に向けて旅立っていきます。本学においても特集で紹介しているように来年度はエネルギーセンターの事業着手など「新生岩手医科大学」への歩みが本格的に始まります。新しい年度を迎えるにあたり、気持ちを新たに仕事に臨みたいと思います。大学報でも引き続き皆さんに旬な情報をお届けしてまいります。

（編集委員：昆 由美子）

岩手医科大学報 第450号

発行年月日 平成26年3月31日

編集 岩手医科大学報編集委員会

事務局 企画部 企画調整課

盛岡市内丸19-1

TEL 019-651-5111（内線7023）

FAX 019-624-1231

E-mail: kikaku@j.iwate-med.ac.jp

印刷 河北印刷(株) 盛岡市本町通2-8-7

TEL 019-623-4256

E-mail: office@kahoku-ipm.jp



障がい者歯科の日帰り全身麻酔下歯科診療について

●はじめに

当科では主に精神遅滞、自閉症、脳性麻痺、染色体異常などの障がいを持った患者さんの歯科治療と予防処置を行っています。

●行動調整

知的障害のある患者さんは歯科診療の場面においても、泣いて診療を拒否するなど、不適応行動を示す場合があります。このような患者さんには安全で確実な歯科治療が行えるよう行動を調整していく必要があります。障がい者歯科診療においては、このような行動調整はきわめて重要です。

●当科での全身麻酔方法

行動調整が難しい患者さんには、日帰り全身麻酔を用いています。ラリンジアルマスクエアウェイを用いて気道確保を行い、自発呼吸を温存して主にプロポフォールおよび亜酸化窒素にて維持する麻酔です。かつて当科でもさかんに行われた、いわゆる静脈麻酔よりも気道確保の面において確実であり、なおかつ気管挿管を用いた麻酔よりも呼吸器系に及ぼす侵襲が小さいのが特徴です。したがって術後の在院時間を2～3時間と短くして、日帰りさせることが可能です。保護者や付き添い者には、日帰り全身麻酔の希望が多いことか

ら、2003年末から開始した本法は現在、当科が行う全身麻酔の99%を占めています。

当科では完全予約制をとっています。月、火、木、金の各曜日の午前中（14：00ごろまで）は日帰り全身麻酔下歯科治療、午後は静脈麻酔下や通法にて歯科治療、新来患者の診察、再来患者の定期管理などを行っています。水曜日と土曜日には終日、定期管理を行っています。現在、全身麻酔下歯科治療は約3ヵ月、静脈麻酔下歯科治療は約1ヵ月の予約待ちとなっています。今後の課題として、マンパワー、診療場所、設備のやりくりを一層工夫することにより、全身麻酔および静脈麻酔の例数を増やして北東北一円から通院する患者さんたちの利便性を高めたいと考えています。



診療風景

第119回大学報編集委員会

日 時：平成26年3月20日(木) 午後4時～午後5時

出席委員：松政 正俊、齋野 朝幸、小山 薫、佐藤 仁、菊池 初子、佐々木 さき子

昆 由美子、佐々木 忠司、藤村 尚子、武蔵 千恵子、野里 三津子